

学校教育課だより



学校教育課だより
「かけはし」
【第6号】
平成29年
10月11日発行
御殿場市教育委員会
学校教育課

学校教育課だより かけはし

九月四日から始まつた人事管理訪問も、残すところわずかとなりました。丁寧に訪問の準備をしていただき、ありがとうございます。
訪問に同行して、多くの学校・学級が落ち着いた雰囲気の中で教育活動に取り組んでいることが確認でき、安心するとともにとてもうれしい気持ちになりました。感心したこと�이いくつかあります。昇降口の下駄箱が見事に整頓され、靴が少しの乱れもなく揃つてていること。来校者に対して、多くの子どもたちが明るい挨拶をすること。教室の掲

教育監兼学校教育課長兼教育指導センター所長

遊 び 心

示物に温かなコメントが書かれていること。子どもたちの表情が明るいこと。

学校教育課の基本目標は「人間力と社会力を核とする心の教育を基本に、確かな学力の定着を図り、安心安全で魅力ある教育を推進する」です。特に心の教育を大切に考えていますが、多くの学校で子どもたちの心の成長が表れている場面に出会い、御殿場の教育がしっかりと推進されていることが分かります。

ある中学校の校長室に、次の言葉が書かれた色紙がおかれていました。

勝亦重夫

「自転車のタイヤを支える道幅はほぼ三センチあれば足りるだろう。しかし、実際に車は通れない。直接役に立つところだけが有用であるのではない。」

誰の言葉なのかずっと気になっていましたが、つい最近になりやっと分かりました。それは、兵庫県但馬地方で教育に力を注いだ東井義雄さんの言葉でした。

これには続きがあります。

「何の役割も果たしていないように見えるところが、案外大切なはたらきをしてくれているのである。」この言葉は、教育を実践する上で示唆に富むものだと思います。

授業を進める時がありがちなのは、教師の思い描いた方向に授業を進めようとするために、都合のよい意見だけを

東井先生の言うところの「何の役割も果たしていない」ように見えるところ」がない。授業は、硬直化して面白みが無く、授業としての幅が狭くなってしまいます。教師の思いだけが先行し、子どもは受け身になってしまい、学びが深まりません。

新学習指導要領の移行期間が、いよいよ次年度から始まります。「主体的・対話的で深い学び」という言葉で強調されているのは、今までの授業の有り様を捉え直すことを迫られているということです。幅広い経験と知識を得るとはもちろん必要ですが、授業の中に「何の役割も果たし

平成二十五年十月に教育委員を拝命してから四年経ち、この九月を持って任期満了となり、歳月の過ぎ去る速さに驚いております。

前教育委員 退任の挨拶

福島 東 様

在任中、大過なくその任務を果たすことができましたのは、市職員をはじめとする教育関係者の皆様の御援助があつたればこそと深く感謝申上げます。

在任中は、様々な行事や会合に出席させていただきましたが、その時常に感じたのは市民の教育に対する関心の高さです。この関心の高さに対応するように市の教育が高い水準にあるものと私は認識しております。

どうか教育関係者の皆様は今後も教育により一層の情熱を注いでいただき、市民の期

ていないよう見えるところをどの様に増やしていくかが教師としての力の見せ所です。先生方が「遊び心」を持ちながら授業づくりをしてくれるこことを期待しています。

待に応えていただければと思います。

この四年間は、皆様に大変お世話になりました。これからは一市民としてよろしく御指導をお願いいたします。

教師力向上講座「かけはし」

第一回は、教育指導センター高橋正彦室長による講義・演習でした。内容は「教職員としての資質・能力を向上させるポイント」です。

講義では、教職員の仕事の構造を「重要度・緊急度」に分類してわかりやすく整理してくださいました。「子どもとのかかわり」等、重要度が高いが緊急度が低いものは、「日常の忙しさに負けてついおろそかになりがちですが、これを怠ると重要度と緊急性が高い問題へと発展してしまいます。若手教職員の心に落ちるお話をでした。

「教師としての資質・能力は、集団づくりと授業づくりにつくる」「一発逆転はない、確信を持って毎日やる、流れずによくやる」「学習集団と生活

だけではダメ、具体的な活動と一緒にやる、活動を繰り返すことで個が育つ」「子どもと一緒に遊ぶ先生は、多少授業がヘタでもついてくる」「学期に一回程度本気で怒る場面が出てくる、つまらないことでは怒らない、怒る時は人生の先輩としての凄みと勝負に出る覚悟を」「子どもの問い合わせを形にする、主体性を核に授業の構造を作り直す」これらは、高橋先生が語った言葉です。みなさん、これらの言葉をどのように受け止めるのでしょうか?現場の先生方と語り合っていただきたいと思います。

第二回は、原里中学校勝又明美教諭による講義・演習でした。内容は「小中九年間を見据えた生徒指導が機能する学級づくり」です。

例えば、ゴミ箱のゴミが煩雑に捨てられていた時、教員はゴミの捨て方を指導します。現状を分析し、新しいルールをつくって対応することもよく行う指導です。しかし、勝又先生はそんな状態から「子どもとの対話」や「子ども理解」へと指導をつなげていく方法を教えてくださいました。

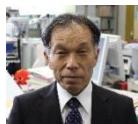
集団は話合い活動だけではダメ、具体的な活動と一緒にやる、活動を繰り返すことで個が育つ」「子どもと一緒に遊ぶ先生は、多少授業がヘタでもついてくる」「学期に一回程度本気で怒る場面が出てくる、つまらないことでは怒らない、怒る時は人生の先輩としての凄みと勝負に出る覚悟を」「子どもの問い合わせを形にする、主体性を核に授業の構造を作り直す」これらは、高橋先生が語った言葉です。みなさん、これらの言葉をどのように受け止めるのでしょうか?現場の先生方と語り合っていただきたいと思います。

第二回は、原里中学校勝又明美教諭による講義・演習でした。内容は「小中九年間を見据えた生徒指導が機能する学級づくり」です。

日常生活中で子どもの気になる表れはたくさんあります。それを指導のみで終わらせるではなく、対話から子ども理解につなげていくことが大切です。「明日から学校で子どもの気になる様子を見かけたとき『あー指導しなくちゃ』ではなく、『ラッキー対話でき

「対話的」から「深い学び」へ

教育指導センター指導員 湯山伸彦



新学習指導要領の案が提示されてから、授業の中でのグループの話合いが今まで以上に使われるようになりました。それは、「対話的」という言葉を意識しての授業の組み立てによるものと思われます。しかし、グループの話合いが取り入れられても、それが効果的に「深い学び」につながっていくには、授業者の授業力の鍛錬が必要になると思います。

- グループの全員が意見を言えるような雰囲気を培ってきたか。
- 児童生徒の意欲を掻き立てるような課題を設定することができたか。
- 各グループの対話や思考を学級全体で共有し、検討・追究することができたか。
- 各グループの対話や思考が、新たな学びや創造につながったか。

等々、日々の実践の中で、吟味を積み重ねることが大切だと思います。

学校訪問の中で、上記の4点が有効であったと考えられる授業の例を紹介します。

高根中学校の小澤俊晃先生による3年生の数学「平方根」の授業です。

まず、前時の復習として $\sqrt{2} \times \sqrt{3} = \sqrt{6}$ 、 $\sqrt{12} \div \sqrt{6} = \sqrt{2}$ の計算を行いました。それならば、 $\sqrt{2} + \sqrt{3} = \sqrt{5}$ が成り立つか?というのが本時の課題です。最初に個人の考えとその理由をノートに書きました。それを元に5つのグループになって話合いをした結果、どのグループも「成立しない」でしたが、その理由が3種類ありました。

- ① $\sqrt{2}$ と $\sqrt{3}$ の近似値1.414と1.732をたすと、 $\sqrt{5}$ の近似値2.236にならない。
- ② $\sqrt{4} + \sqrt{9} = \sqrt{13}$ は、成り立たない。
- ③ $\sqrt{ }$ がつくと文字式と同じだから、 $\sqrt{ }$ の中をたすことはできない。

3種類の考えを一つ一つ吟味していく中で、生徒は自分のグループの正当性を主張しながらも、平方根の計算の基本的な考え方を深く理解することができました。先生は、生徒の考えを根気良く待ち、しっかりと受け止めながら、より深い学びへ導いていきました。

生徒が出した考えは、全てが次の段階につながり、自分たちの思考によって課題を解決し、深く学んだことに充実感を持ったように見えました。

日々の実践の中でグループの話合いが、有効に機能するような活用法を磨いていただきたいと思います。

日常生活で子どもの気になります。それはたくさんあります。それを指導のみで終わらせるではなく、対話から子ども理解につなげていくことが大切です。「明日から学校で子どもの気になる様子を見かけたとき『あー指導しなくちゃ』ではなく、『ラッキー対話でき

るチャンス』と思えるような気がします。」これは、ある参加者の感想です。勝又先生の感性に触れ、これまでの自分の指導を振り返り、違った視点から日常の生徒指導を行ってみようと考えた方が大勢いたのではないかと思います。

【指導主事 丹澤 謹志】

